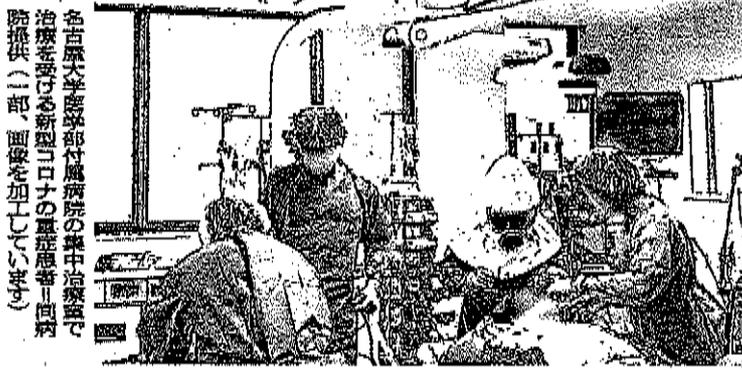


搬送困難 各地で多発

第8波 拒否32回 227分待機も



名古屋大学医学部付属病院の集中治療室で治療を受ける新型コロナウイルスの重症患者（同病室）
隣接棟（二部）画像を加して（写真）

現場疲弊 救急車事故

救急車の搬送先がすぐに決まらない「救急搬送困難事案」の件数が、依然高水準となっている。新型コロナウイルスの第8波に加え、日中の経済活動が戻りつつあることで、コロナ以外の搬送要請も増えているためだ。休憩もままならない救急現場では、事故への危機感も高まっている。

「ただいまから、2次救急の発熱症状者のみ、受け入れ不能となりました」

18日午前、名古屋駅近くにある名古屋消防局本部救急隊の詰所にて、放送が鳴り響く。市内のある病院が、一部の搬送者の受け入れを停止したという。

隊員の男性は、「病院の受け入れ制限を受け入れ停止が明らかに増えている。病棟も手いっぱいだなと感じている」と話す。

医療機関から少なくとも3回受け入れを断られ、30分以上現場に滞在せざるを得ない事例を「救急搬送困難事案」という。この際でも、最近では受け入れ先を練するため、5回ほど電話をかけることもしばしば。1件当たりの対応時間も、以前は1時間以内で収まっていたが、今では2時間ほどに及ぶこともある。

市消防局によると、昨年1年の救急出動件数は14万6千件を超えて過去最多となった。新型コロナウイルスの感染拡大によるものもあつたが、「ウイノスコロナ」が進

■新型コロナウイルス感染者（1月24日午後6時半）

国内の確認	3218万3202人(+8万3358)	うち空港検疫など	2万3698人(+10)
死者	6万6345人(+383)	死者	8人
重症	638人(-6)	24日午前0時	

都道府県	感染者	死者	感染者	死者
北海道	1298708(+2221)	4340	356514(+1444)	599
青森県	277756(+714)	603	650685(+1458)	1489
岩手県	223126(+739)	550	2743394(+5933)	7842
宮城県	510936(+1280)	860	1409875(+2813)	3546
秋田県	192009(+587)	545	326225(+950)	756
山形県	216339(+690)	339	225832(+493)	464
福島県	382730(+1331)	583	132255(+621)	231
茨城県	606015(+577)	1166	157153(+775)	261
栃木県	399055(+1435)	948	468766(+1433)	754
群馬県	420401(+1430)	966	765693(+2799)	1209
埼玉県	1742615(+4126)	3447	293807(+1327)	666
千葉県	1410922(+4058)	3431	155146(+727)	362
東京都	4237895(+7306)	7488	238553(+1104)	543
神奈川県	2145944(+4591)	3931	297442(+1411)	594
新潟県	434326(+1340)	350	157251(+608)	525
富山県	223925(+809)	291	1528994(+3708)	2861
石川県	266138(+923)	465	251633(+807)	435
福井県	190557(+564)	180	322644(+1024)	553
山梨県	179808(+756)	332	515522(+1703)	1147
長野県	430613(+1101)	779	288677(+730)	622
岐阜県	609919(+2243)	1001	307999(+1081)	695
静岡県	815909(+2387)	1172	421985(+1285)	785
愛知県	2030909(+6693)	3920	567874(+665)	858
岐阜県	432028(+650)	905		

総数 3218万3925人(+8万3358) 死者 6万6345人(+383)

感染者数は「疑似症患者(みなし陽性者)」を含む。カッコ内は前日との比較。都道府県と厚労省の発表は一部重複。再陽性は同一人数で計上。陽性はダイヤモンド・プリンセス乗船者を含む

■ワクチン接種（24日、政府の発表から）

1回目	81.4%	3回目		4回目	
2回目	80.4%	総接種数(接種率)	8559万2610 (88%)		5665万6806

「自分が事故を起こすのではないか」と感じる。救急車を呼ぶ前に自分でも対処できないかを考えて欲しい」と男性は話す。

病院も苦しい状況だ。名古屋大学医学部付属病院(名古屋市中区)は集中治療室(ICU)でコロナの重症患者を受け入れてきた。山本尚輝救急科長(44)によると、同病院ICUの病床はコロナ対応を含めて80床ほどあるが、現在は重症化が進み、年々救急搬送が増えていると語る。コロナの流行が重なる。離職者が増える懸念もある。山本医師は警鐘を鳴らす。

「救急車を呼んですぐに運んでくれる」ことが当たり前じゃなくなってしまう(山下寛久、岩田源英、高崎 亮)

ケースが増え、年末年始には、1日5〜6人の重症患者の受け入れ要請を断らざるを得ない状況に陥った。山本医師によると、高齢化が進み、年々救急搬送が増えていると語る。コロナの流行が重なる。離職者が増える懸念もある。山本医師は警鐘を鳴らす。